

2. 危険有害性の要約

人健康有害性

| | |
|--------------------|---------|
| 急性毒性(経口) | 分類対象外 |
| 急性毒性(経皮) | 分類対象外 |
| 急性毒性(吸入:気体) | 分類対象外 |
| 急性毒性(吸入:蒸気) | 分類対象外 |
| 急性毒性(吸入:粉じん) | 分類対象外 |
| 急性毒性(吸入:ミスト) | 分類対象外 |
| 皮膚腐食性・刺激性 | 分類対象外 |
| 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 | 分類対象外 |
| 呼吸器感作性 | 分類対象外 |
| 皮膚感作性 | 分類対象外 |
| 生殖細胞変異原性 | 分類対象外 |
| 発がん性 | 分類対象外 |
| 生殖毒性 | 分類対象外 |
| 特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) | 区分3(気道) |
| 特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露) | 分類対象外 |
| 吸引性呼吸器有害性 | 分類対象外 |

環境有害性

| | |
|-----------|--|
| 水生環境急性有害性 | |
| 水生環境慢性有害性 | |

注意喚起語

危険

危険有害性情報:

情報なし

注意書き:

【安全対策】

- 取扱い後はよく手を洗うこと。
- この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- 適切な保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

【応急措置】

- 飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。
- 飲み込んだ場合、口をすすぐこと。
- 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 吸入した場合、呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。皮膚を直ちに石けんと多量の水で洗うこと。
- 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
- 漏出物を回収すること。

【保管】

- 換気の良い冷所で保管すること。
- 容器を密閉しておくこと。

3. 組成、成分情報

製品タイプ 混合物

危険有害成分

| 化学名又は一般名 | 濃度又は濃度範囲 | 化学式 | 化審法番号 | 安衛法番号 | CAS番号 |
|----------|----------|-----|---------|-------|-----------|
| 塩化水素 | 1.29 % | HCl | (1)-215 | - | 7647-01-0 |

4. 応急措置

| | |
|------------------|---|
| 眼に入った場合 | コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。 損傷していない眼を保護すること。 多量の水で15分以上良く洗浄し、医師の診察を受けること。 |
| 皮膚に付着した場合 | 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。 皮膚を直ちに石けんと多量の水で洗うこと。 症状が持続する場合は、医師に連絡すること。 |
| 吸入した場合 | 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 症状が持続する場合は、医師に連絡すること。 |
| 飲み込んだ場合 | 間違えて飲み込んだ場合は、医師の指示を受けること。 口を水ですすぐこと。 意識が無い場合、口から絶対に何も与えないこと。 |
| 予想される急性症状及び遅発性症状 | 情報なし |
| 最も重要な兆候及び症状 | 情報なし |
| 応急措置をする者の保護 | 情報なし |
| 医師に対する特別注意事項 | 情報なし |

5. 火災時の措置

| | |
|-------------|--------------------------------|
| 消火剤 | 現場の状況と周辺環境に応じて適切な消火手段を用いる。 |
| 使ってはならない消火剤 | 情報なし |
| 特有の危険有害性 | 製品の分解物にさらされると、健康に危害を及ぼす可能性がある。 |
| 有害燃焼生成物 | 有害燃焼生成物は知られていない。 |
| 特有の消火方法 | 火災や爆発の場合は、煙霧を吸い込まない。 |
| 消火を行う者の保護 | 消火活動時には必要に応じて自給式呼吸装置を装着する。 |

6. 漏出時の措置

| | |
|-----------------------|---|
| 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 | 保護具を使用する。 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレアの吸入を避けること。 |
| 環境に対する注意事項 | 情報なし |
| 回収、中和 | 情報なし |
| 封じ込め及び浄化の方法・機材 | 廃棄に備え適切な容器に入れて蓋をしておく。 |
| 二次災害の防止策 | 情報なし |

7. 取扱い及び保管上の注意

| | |
|-----------|--|
| 取扱い | |
| 技術的対策 | 情報なし |
| 局所排気・全体換気 | 情報なし |
| 安全取扱い注意事項 | 個人保護については「8. ばく露防止及び保護措置」を参照。 作業エリアでは、喫煙、飲食は禁止する。 |

9. 物理的及び化学的性質

| | |
|----------------|---------------------|
| n-オクタノール／水分配係数 | データなし |
| 自然発火温度 | 不定 |
| 分解温度 | データなし |
| 揮発性有機化合物 | データなし |
| 粘度 | データなし |
| 密度 | 1 g/cm ³ |

10. 安定性及び反応性

| | |
|------------|--------------------|
| 反応性 | 指示通り保管・適用すれば分解しない。 |
| 安定性 | 指示通り保管・適用すれば分解しない。 |
| 避けるべき条件 | データなし |
| 混触禁止物質 | データなし |
| 危険有害な分解生成物 | 指示通り保管・適用すれば分解しない。 |
| 危険有害反応可能性 | 推奨保管条件下では安定。 |

11. 有害性情報

急性毒性

| | |
|-------------------|--|
| 経口 | データなし |
| 経皮 | データなし |
| 吸入（蒸気） | データなし |
| 吸入（ミスト） | データなし |
| 発がん性 | データなし |
| 皮膚腐食性・刺激性 | 敏感な人は、皮膚に刺激を起こす可能性がある。ウサギの動物実験の結果、腐食性を示した。 |
| 眼に対する重篤な損傷・刺激性 | 眼を刺激することがある。ウサギの動物実験の結果、腐食性を示した。 |
| 呼吸器感受性又は皮膚感受性 | データなし |
| 生殖細胞変異原性 | データなし |
| 発がん性 | データなし |
| 生殖毒性 | データなし |
| 特定標的臓器・全身毒性（単回暴露） | ヒトで吸入ばく露により気道炎症を呈するため、区分3（気道）とした。 |
| 特定標的臓器・全身毒性（反復暴露） | データなし |
| 神経毒性 | データなし |
| 特定標的臓器 | データなし |
| 吸引性呼吸器有害性 | データなし |

12. 環境影響情報

生態毒性

| 化学名 | 藻類に有毒 | 魚毒性 | 微生物に対する毒性 | Daphnia magna（オオミジンコ） |
|-------------------|-------|---|-----------|-----------------------|
| Hydrogen chloride | | LC50 96h 282 mg/L (<i>Gambusia affinis</i>) | | |

| | |
|---------|-------|
| 残留性/分解性 | データなし |
| 生体蓄積性 | データなし |
| 移動性 | データなし |

1 3. 廃棄上の注意

| | |
|------------------|---|
| 残余廃棄物 | 試薬、検査に使用した器具類および廃液を廃棄する場合は、廃棄物の処理および清掃に関する方質、水質汚濁防止法等ならびに施設の手順に従って廃液すること。 |
| 汚染容器及び包装 廃棄方法 | 空の容器は、リサイクルまたは廃棄のために許可を受けた廃棄物処理業者に委託する。 情報なし |

1 4. 輸送上の注意

| | |
|--------|--|
| 国際規制 | |
| 海上規制情報 | IMDG: 危険物として規制されていない。 |
| 航空規制情報 | IATA: 危険物として規制されていない。 UNRTDG: 危険物として規制されていない。 |

国内規制

特定の国の規則は、項目15を参照する。

| | |
|---------|------------------------------|
| 特別の安全対策 | 国際輸送に関する国連勧告の定義上は、危険物に該当しない。 |
|---------|------------------------------|

1 5. 適用法令

| | |
|---------------|---|
| 毒物及び劇物取締法 | - |
| 化学物質排出把握管理促進法 | - |
| 労働安全衛生法 | 名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第57条、施行令第18条の1別表第9の98）（塩化水素） |

1 6. その他の情報

参考文献

改訂日

改定メモ

推奨される制限

免責条項

このMSDSの情報は、その公開の時点において弊社の有する知識、情報及び見解の限りにおいて作成されています。提供した情報は、安全な取り扱い、使用、加工、貯蔵、輸送、廃棄及び放出のためのガイドのみを意図としたものであり、品質を保証しているものではありません。この情報は指定した特定の物質のみに関するものであり、他の物質とともに使用する場合、または他のプロセスで使用する場合はこのMSDSに記載のない限り適用されないことがあります。